

呼吸器感染症に対する ME 1207 の臨床的検討

河合 伸・押谷 浩¹⁾・高安 聡・小林 宏行

杏林大学医学部第一内科学教室*

¹⁾現：永寿会陵北病院

呼吸器感染症 3 例(肺炎 2 例, 急性気管支炎 1 例)に対して ME 1207 1 回 100 mg, 1 日 3 回の内服による臨床効果を検討した。その結果, 肺炎 2 例中有効 1 例, やや有効 1 例, 急性気管支炎 1 例は有効であった。副作用および臨床検査値の異常は認められなかった。

Key words : ME 1207, 臨床的研究, セフェム系抗生剤

ME 1207 は, 新しく開発されたエステル型経口セフェム剤で, 抗菌活性を有する ME 1206 の 4 位カルボン酸にピバロイルオキシメチル基をエステル結合させることにより経口吸収を高めたプロドラッグである。活性体である ME 1206 はグラム陽性およびグラム陰性菌に対して, 既存の経口セフェム剤に比し強い抗菌力と幅広い抗菌スペクトルを有している^{1,2)}。

今回, 著者らは, 本剤の臨床的有効性, 安全性について検討する機会を得たのでその成績について報告する。

対象患者は平成元年 3 月から同年 7 月までに来院し, 同意の得られた 3 例で, 症例の内訳は, 肺炎 2 例, 急性気管支炎 1 例であった。投与方法は 1 回 100 mg 1 日 3 回を食後経口投与した。投与期間は 7~14 日間であった。臨床効果判定は, 体温, 咳嗽, 喀痰の量と性状, 胸部 X 線所見, 菌の消長, 血沈値, CRP, 白血球数と分画などの自他覚所見の改善度を指標とし, 著効, 有効, やや有効, 無効の 4 段階で判定した。細菌学的効

果は菌の消長により, 消失, 減少, 菌交代, 不変, 不明と判定した。

検討した症例の概要を Table 1 および 2 に示す。各症例の臨床症状について検討を加えると, 症例 1, 2 は肺炎例で, 症例 1 は本剤投与後咳嗽, 喀痰の減少など, 自他覚所見の改善と胸部 X-P および検査所見に改善が認められたため有効と判定された。症例 2 は解熱傾向がみとめられ, 胸部 X-P の改善傾向がみられ, 起炎菌も消失したが, 咳嗽, 喀痰量など自他覚所見が継続したため, やや有効と判定された。症例 3 は急性気管支炎例で, 解熱傾向がみられ, 自他覚所見の軽減と検査所見の改善がみられ, また起炎菌も消失したため有効と判定された。細菌検査により 3 症例中起炎菌と考えられる菌は 2 症例に検出された。1 例は *Staphylococcus aureus*, 1 例は *Haemophilus influenzae* で共に消失した。

以上をまとめてみると, 3 例中有効 2 例, やや有効 1 例であった。

Table 1. Clinical efficacy of ME1207

Case no.	Age	Sex	Diagnosis underlying disease	Treatment			Isolated organism		Efficacy		Side effects
				daily dose (mg)	duration (days)	total dose (g)	Species	Count	Clinical	Bacteriological	
1	75	M	pneumonia chronic hepatitis hypertension	300	14	4.2	NF ND	—	good	unknown	(-)
2	66	F	pneumonia chronic hepatitis	300	14	4.2	<i>S.aureus</i> NF	+	fair	eradicated	(-)
3	65	M	acute bronchitis pulmonary emphysema	300	7	2.1	<i>H.influenzae</i> NF	+	good	eradicated	(-)

NF : normal flora

ND : not done

Table 2. Laboratory findings before and after treatment with ME1207

Case no.		CRP (mg/dℓ)	ESR (mm/h)	WBC (/mm ³)	GOT (IU)	GPT (IU)	Al-P (IU)	BUN (mg/dℓ)	Creatinine (mg/dℓ)
1	B	5.3	88	14,500	15	11	200	18.3	0.8
	A	0.8	78	7,900	22	19	ND	16.0	0.8
2	B	0.4	65	6,000	15	5	153	11.7	0.7
	A	0.3	58	6,800	17	7	153	12.2	0.7
3	B	3.2	15	8,400	16	12	139	12.6	0.8
	A	0.8	12	7,200	18	15	142	11.6	0.8

B: before A: after ND: not determined

安全性に関して、今回検討した3例に臨床症状、所見で認めるべき副作用はなく、臨床検査値の異常変動も認められなかった。

ME 1207はエステル型の経口セフェム剤で、グラム陽性菌、グラム陰性菌に対し、幅広い抗菌スペクトルを有し、その作用は殺菌的である。また本剤は喀痰、扁桃組織等への移行が認められている³⁾。

今回我々はME 1207を呼吸器感染症患者に使用し、良好な有効性を得、安全性にも問題がなかったことおよび組織移行も良好なことを考慮してみると、本剤の臨床的使用に期待が持たれ、他領域も含め検討を重ねるに値する薬剤であると考えられる。

文 献

- 1) Sakagami K, Atsumi K, Tamura A, Yoshida T, Nishihata K, Fukatsu S: Synthesis and oral activity of ME1207, a new orally active cephalosporin. *J Antibiot* 43: 1047~1050, 1990
- 2) Tamura A, Okamoto R, Yoshida T, Yamamoto H, Kondo S, Inoue M, Mitsuhashi S: In vitro and in vivo antibacterial activities of ME 1207, a new oral cephalosporin. *Antimicrob Agent Chemother* 32: 1421~1426, 1988
- 3) 横田健, 島田馨: 第39回日本化学療法学会総会, 新薬シンポジウム. ME 1207, 東京, 1991

CLINICAL STUDY ON ME 1207

Shin Kawai, Hiroshi Oshitani*, Akira Takayasu, Hiroyuki Kobayashi

First Department of Internal Medicine, Kyorin University, School of Medicine

6-20-2 Shinkawa, Mitaka 181, Japan

*Ryohoku Hospital

We evaluated the clinical efficacy of ME 1207 in 3 patients with respiratory tract infections. The drug was given orally at a dose of 100 mg three times a day. Clinical response was good in two and fair in one. There were no side effects or abnormal laboratory findings due to treatment.